



市政 PICK-UP

たすきでつながる日米交流

12月2日、愛宕スポーツコンプレックスの55フィールドで、第2回日米親善リレーマラソンが開催され、6つの部門に分かれた199チームが参加し、約5千人が会場を訪れました。

沿道からは日本語と英語で互いに声援を送り合い、ランナーは笑顔で応えていました。仮装して競技に参加する人も多く、趣向を凝らしたユニークな衣装で走る姿は、観客を多いに楽しませました。

ゲストランナーの元プロサツ

第2回日米親善リレーマラソン

カー選手の森崎浩司氏がリフティングをしながら1.4 kmのコースを一周した際にはどよめきと拍手が起きました。

4時間たすきをつなぎ続け、タイムアップを迎えた瞬間、会場では歓声が上がりました。日本人と外国人がハグや握手で健闘をたたえ合う姿が見られました。

日米交流を目的としたこの大会は、来年12月1日の開催が予定されており、さらなる盛り上がりが見込まれます。

関スポーツ推進課 ☎ 5103



科学を探究する心を育む

11月29日、科学センターで岩国市・和木町科学振興展覧会等表彰式が行われました。

小・中学生が夏休み中に作成した科学工作や取り組んだ自由研究の中で、市や県の科学作品展覧会や研究発表会で優秀な成績を収めた学校や個人を表彰するもので、岩国市・和木町の学校7校と児童生徒13人が表彰されました。

守山敏晴教育長は「どの分野においても、日常から努力を積



▲表彰を受けた児童生徒の作品や発表は、県大会のサイエンス山口でも高い評価を受けた

岩国市・和木町 科学振興展覧会等表彰式

み重ねたものが実を結んだと思います。これからも自信を持っていろいろなことに挑戦してください」と出席した児童生徒を激励しました。

市の科学振興展覧会と科学振興研究発表会は、子供たちの科学を探究する心を育むため岩国市・和木町合同で毎年行われています。今年度は小・中学校から展覧会で3378点、研究発表会で10件が審査を受けました。図科学センター ☎ 0122



▲林優希さんは錦帯橋の強度を研究した作品で、サイエンス山口2018の中学生自然の部で優秀賞を受賞

交流する楽しさを体感



▲日米の子供が英語で会話しながらお互いに助け合い工作を行った



▲いす取りゲームで最後に一つのいすが残り盛り上がる教室

12月7日、由宇小学校の3・4年生約130人と岩国基地内のイワクニ・エレメンタリーのスクールの3年生約110人が英語で活動し交流する「由宇小イングリッシュ・デイ」が行われました。

開会行事では由宇小学校の3・4年生全員によるソーラン節が披露され、息のぴったり合った踊りにエレメンタリー・スクールの子供たちは大喜びで拍手を送っていました。

名刺交換とじゃんけん列車で

由宇小イングリッシュ・デイ

すぐに打ち解けた日米の子供たちは、すぐろくやコミュニケーションゲーム、工作などを楽しみながら交流を深めました。

この取り組みは日米の子供たちが英語での交流を通して、豊かなコミュニケーション能力を育むとともに、外国の文化や習慣の違いを理解し尊重する態度を養うために行われたものです。市では今後も英語教育の質を高めるためのさまざまな活動に取り組んでいきます。

図英語教育推進室 ☎ 295204